

甘藷のやうな経済的なものを巧に料理しておいしく食べることが出来るならばおもしろからう。経済的にやすいものを取りてうまく料理し娛樂の目的にかなふやうにつとめなければならぬ。

防水布について

技四 山口さん

遠藤ひさよ

安在徳野

神保ムメ

普通に防水布と申します中には皆様も御存じの通り二様のものがございますその一は全く水を通さぬもの即ち全く布目に穴を持たぬもので其の二は布目に穴はございますが水をはちく性質を有するがために一寸した水を通さないと云ふのでございます今私共の研究いたしましたのは後者即ち布目に穴はあるが水をはじくといふ方なのでございます水をはじく性質だにございましたならば小さい穴があつても一寸した水を通すことのないといふ説明は皆様の大部分が御存じのことゝ考へますから之を省きましてこゝにはこの種の防水布の主なる製法の大要を申して見やうと存じます先づ防水布を作りますには第一に布の撰擇が必要でございますそれは成るべく布の目の密

であることでございます繊維は動植物の何れでもよろしうございます。

次は防水液の種類

防水液の種類には種々ございますが左にその二三を述べて見やうと存じますその第一は硫酸アルミニウムと醋酸鉛とを加へて作りまして醋酸アルミニウムを用ゐていたしますもの、其の二は明礬の飽和溶液に炭酸ソーダを加へて鹽基性硫酸アルミニウムが出来ますこれを用ゐますもの其の三は市中で賣て居ります福田式の防水剤を用ゐますもの其の他にも種々試みて見ましたけれども此の三者が殆ど揃つて成績が良い様でございますから左にその實驗いたしました次第を申述べませう。

實驗

先づ第一液から防水布を作ることを申述べませうこの液は硫酸アルミニウムと醋酸鉛とを加へて出来たる液の濃さがボーメーの三度乃至四度ならばよいのでございます、それには硫酸アルミニウムを百七十瓦醋酸鉛百九十瓦、之を何れも乳鉢でよく摺りましてそれを各々冷水五百ccに溶かしましてその充分にとけましたところでこの二液を交ぜますさういたしますと直ちに白色の沈澱が出来ます、これが即ち硫酸鉛で重うございますから沈澱となつて下に沈むのでその上に澄んだ液が出来ますこれが即ち防水液となるのでございます。

この上澄を静かに別器にとつて置きますそしてその前に布はちやんと石鹼液にひたして油氣をとつておかねばなりませんその時に色のあるものならば常温度の水に少量の石鹼を加へた液で汚れをとつて置きますそして十分に脂肪氣がとれましたならばよくこれを水洗いたしましたして今度はそれを豫め作つて置いたマルセル石鹼の飽和溶液温度攝氏四十度位その中に三十分間浸して置きます之は透滲作用を促すためでありますそしてその間も十分に石鹼液が布目に浸み込みます様いたしましたそして三十分たちましたらそれを軽く絞り表面に石鹼の泡の付かぬ様にいたしますそして之を前に別器に取りて置きました防水液の中に浸しますそして矢張り時々布の全体に液の浸み込む様に掻き交せましてこれに凡そ一時間許り浸して置きますそしてそれを取出してよく水洗いたしますこの時に決して布をひどく絞つてはいけませんそしてこの水洗したるものを自然に乾かします天日が最もよう御座います火に乾かしたるものは成績が悪う御座いますこれで防水布が出来上つたので御座いますがこれはなほ充分とは申されませんそれで其の行程を二三度繰り返すので御座います三度繰り返しますと充分完全なものが出来すしかしまだそれよりも一層完全に致しますには、これにバラヒンの仕上げを施すので御座いますバラヒンの仕上げと申しますと一寸家庭などでいたしますには面倒らしい様に聞えますが決して面倒では御座いません固形バラヒンの純粹のものを少量取りましてこれを揮發油に溶かし一%の液といたしましてこれをこの防水

の出来ました布に霧吹きで萬邊なくふりかけるので御座います若し霧吹が御座いませんでしたならば刷毛か布かで塗り付けます斯様に致しましたならばほんとに完全なものが出来す、こゝにこゝうして作りました防水布を持つて來まして中に金魚を入れて置きました二時間餘を經過いたしました金魚はなほ活潑に泳ぎ布はなほ完全に水を弾いて居ります以上の中でも完全に出来す但其の繰り返す手續きを省いて同液に十二時間浸して時々攪拌し其の後引上げて天日に乾かしますこれでも充分の成績が得られます。

次には第二の方法を申し上げますこれは常温度に於ける明礬の飽和溶液をつくりましてこれに炭酸ソーダの液を少量づゝ加へ其加へました度毎に強く振り次に少し許りの白色の沈澱が永久に残るまでにいたしますそしてこの液に布を浸すこと數十分をして別に常温度に於いての石鹼の飽和溶液中に數分間浸しますそして天日に乾かします、これで出来上るので御座いますこの方法で炭酸ソーダの代りにアンモニアを用ゐるのも御座います。

第三の方法は福田式の下御座いまして此の使用法は、廣告の注意書きに書いて御座いますから省きます。

以上の三つの方法は何れも大体に於て成績は同じて御座います其の成績の良否を定めます方法としては先づ水の弾き具合と水に浸して其の浸まぬ時間の長短を比較いたしましたら第一法のもの

が最もよう御座いました。次に價格を申し上げます。

一、明礬に炭酸ソーダ又はアンモニヤを用ゐたる液 九錢

一、福田式 廿五錢

一、醋酸アルミニウム 廿六錢

以上の價格は液量何れも千三百 c.c.

それ故これを作りますには保存上の事又經濟上の事を考へまして適宜にどれでもをなされましたらよろしう御座います。

用途

これは申すに及びません字の通りに水を弾くために必要なもので先づ雨降りの洋傘合羽又は風呂敷などは至極適當して居ります私共が毛繻子の雨傘を明礬を用ひたので防水にいたしました成績は非常に宜う御座いました同様の方法で絹張のものをいたしましたがこの方は液の分量が少ないのと浸し方が不十分でありましたので前者の様なよい成績は得られませんでしたこれをいたしますには液に全部を浸す事が出来ませんから氣永に液を塗り付けました。

注意

其れでこゝに一寸申上げたいと存じますのは何物でもこの防水液に浸します前には其の布の油氣を充分に除き去らねばなりません液を布一丈で一升五合も有りますと充分で御座います何しろ布を浸して充分に浸さるゝほどの液が有ればよいので御座いますそして此の液を繰返して用ひて宜しう御座いますそして繊維は前に述べました通成可く目のつんだ方が成績が佳良で御座います防水度の大小は同質のものでは繊維の太さの小なれば小なるほど防水度は大で有りますと云ふ事は御注意になれば宜しう御座います 以上

元祿時代の繪畫に現はれたる婦人の衣服の模様

技藝科二部三學年 佐藤 ふじ

原田 ゑい

此の事を驗べるに就ては菱川師宣と西川祐信との浮世繪をとつた事は、等しく元祿の前後に出でて師宣の方は江戸に於いて聲名を博し江戸のライフを代表して居る、祐信の方は京都に於いて頭角を現はし其の地に於いて盛なりき即ち當時に於ける京阪地方を代表して居る。此の意味に於いて二人の繪畫に依つて、元祿時代の婦人の衣服の模様を探りたると云ふ事は、適切なりと思ふ、繪畫より考ふれば實際と何處まで一致して居るか疑問である。されど此の繪畫に依つて時代の嗜